

彗星も「太陽系天体」の一種です。ただ、軌道が極端に細長く、太陽を中心とした「離心率」が非常に大きな数値をとる、大変特殊な天体です。コア（中心核）のサイズも小さく、太陽から遠い時は観測が難しく、未知の彗星の場合発見すらされません。太陽に近づくと尾を伸ばし始め、やっと望遠鏡や肉眼でも観望が可能になるのです。尾が一番長くなるのは、近日点（太陽に最も近づく位置）ですが、太陽に近すぎて地球からの観測が難しく

くなります。太陽から少し遠ざかると、尾は短くなり等級も落ちますが、日没後数時間も観測が可能になります。

紫金山・アトラス彗星も、10月には2等星相当まで明るくなり、肉眼でも観望できました。しかし11月に入るとどんどん暗くなり、現在は7等星相当まで落ちています。すでに肉眼での観望は不可能で、通常の機材では撮影も難しくなっています。あれだけ賑わった「彗星撮影合戦」も終焉に近づいています。

しかし、「Seestar」を使うと、まだまだ撮影が可能だとわかりました。

「Seestar（シースター）」というのは、レンズ・架台・CCD・インターフェイス一体型の「天体写真儀」の一種です。試しに11月上旬に、6等級まで暗くなった紫金山・アトラス彗星を撮影してみました。紫金山・アトラス彗星の最新の位置は、スマホアプリに表示されるので、難しい設定は不要で、数分で正確な天体導入に成功しました。30秒の露光後、スマホ画面に表示された写真に驚きました。まさに「彗星」の姿でした。人工衛星の軌跡も写っていたので、まさにその場で撮影した写真という証拠にもなりました。もう少しよく写った写真もあるので、後日紹介します。



2024年11月上旬／北軽井沢

Seestarで撮影